

機構長あいさつ

現代の情報化社会では、おびただしい数の社会調査が行われています。変動の激しい、多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ、生起するさまざまな課題や社会問題の解決を図っていく上で、社会調査は不可欠の方法です。

こうした社会調査の高まる重要性に比して、その担い手となる専門的人材の育成システムの現状は、きわめて未整理の状態にあります。

こうした声に応え、社会調査に関する教育体制を整備し、科学的な社会調査を担える人材の育成を組織化すると同時に、その専門的職業としての資格の制度化をはかることが必要となってきました。そこで、日本教育社会学会、日本行動計量学会、日本社会学会の三学会が、相互の連携協力のもとに、2003年11月、「社会調査士資格認定機構」を創設しました。

学生諸君は、社会調査士資格申請に積極的に挑戦して、諸君の将来に広い可能性を開いて下さい。各企業、行政機関等におかれましては、社会調査士資格をもった人材を積極的に活用して、社会調査をそれぞれの業務に正しく、かつ十分に生かして頂きたいと思っております。

2006年12月1日

細谷 昂

研究分野・・・社会学（日本及び中国の農村地域の調査研究）

主要業績

- ・『社会調査の教育と実践化についての総合的研究 平成14年度～平成15年度 科学研究費補助金[基盤研究(A)(1)]研究報告書』(研究代表者)2004年
- ・『稲作農業の展開と村落構造』(菅野正・田原音和と共著)1975年、御茶の水書房
- ・『東北農民の思想と行動』(菅野正・田原音和と共著)1984年、御茶の水書房
- ・『農民生活における個と集団』(小林一穂・秋葉節男・中島信博・伊藤勇と共著)1993年、御茶の水書房
- ・『現代と日本農村社会学』(単著)1998年、東北大学出版会
- ・『沸騰する中国農村』(菅野正・中島信博・小林一穂・藤山嘉夫・不破和彦・牛鳳瑞と共著)1997年、御茶の水書房
- ・『再訪・沸騰する中国農村』(吉野英岐・佐藤利明・劉文静・小林一穂・孫世芳・穆興増・劉增玉と共著)2005年、御茶の水書房

略歴

- ・東北大学教養部教授(1977-1993年)
- ・東北大学教養部長(1985-1989年)
- ・東北大学大学院情報科学研究科教授(1993-1998年)
- ・岩手県立大学総合政策学部教授(1998-2006年)
- ・岩手県立大学総合政策学部長(1998-2002年)
- ・日本村落研究学会会長(1997-1999年)
- ・社会調査士特別委員会委員長(2001年-2003年)
- ・日本社会学会会長(2003-2006年)
- ・中国河北省社会科学院客員研究員(1994年)

社会調査士資格認定機構役員構成（2006年11月19日 評議会・理事会決定）

理事会役員（計25名）

機構長 細谷 昂 （日本社会学会）
副機構長 杉山 明子 （日本行動計量学会）
事務局長 直井 優 （日本社会学会）
事務局次長 大谷 信介 （日本社会学会）
理事 天野 正子 （日本社会学会）
井上 真理子（日本社会学会）
今田 高俊 （日本社会学会）
岩井 八郎 （日本教育社会学会）
岩木 秀夫 （日本教育社会学会）
岩永 雅也 （日本教育社会学会）
大村 英昭 （日本社会学会）
岡太 彬訓 （日本行動計量学会）
狩野 裕 （日本行動計量学会）
古賀 正義 （日本教育社会学会）
後藤 範章 （日本社会学会）
小林 久高 （日本社会学会）
近藤 博之 （日本教育社会学会）
杉岡 直人 （日本社会学会）
盛山 和夫 （日本社会学会）
中野 正大 （日本社会学会）
長谷川 公一（日本社会学会）
林 文 （日本行動計量学会）
原 純輔 （日本社会学会）
松本 康 （日本社会学会）
吉野 諒三 （日本行動計量学会）

評議員役員（計15名）

評議会議長 藤田 英典 （日本教育社会学会）
評議員 飽戸 弘 （日本行動計量学会）
飯田 浩之 （日本教育社会学会）
井上 俊 （日本社会学会）
河西 宏祐 （日本社会学会）
菊池 城司 （日本教育社会学会）
木下 富雄 （日本行動計量学会）
熊谷 苑子 （日本社会学会）
倉沢 進 （日本社会学会）
塩原 勉 （日本社会学会）
藤見 純子 （日本社会学会）
宝月 誠 （日本社会学会）
町村 敬志 （日本社会学会）
宮原 守男 （日本行動計量学会）
矢澤 修次郎（日本社会学会）